

# 行政視察研修

## 一人会派クラブ

ごみ処理施設、駅南整備、

桜の維持について

本会派は、3月25日から3日間、大阪府茨木市、奈良県橿原市、吉野町にて視察研修を行いました。

はじめに、茨木市環境衛生センターは、連続高温溶融炉を昭和55年に全国に先駆けて建設し、その後、平成5年6月より増改築を行い、平成11年3月までに、処理能力を1日当り450トンで運営しています。

ごみは資源ごみをはぶいた普通ごみ、粗大ごみを高温溶融し、スラッグ・鉄分として取り出し再資源化しています。また、びん・缶・ペットボトル・紙などは分別回収し、有効活用することにより、市民はごみの処理が簡便となって喜んでいそうです。次に、橿原市の近鉄八木駅南整備事業は、駅前2・6ヘクタールの土地を沿道区画整理型街路事業の手法により、駅前広場、都市計画道路といった街路整備を行うとともに、沿道宅地の整備を行い、土地の有効か

つ高度利用を促進し、駅前の形成を図っていました。

次に、吉野町の吉野山の桜の維持・保全対策は、財団法人吉野山保勝会という組織にて維持管理されています。この会は大正5年に設立され、主な活動は、下草刈の徹底や枯損木の伐採、新たな桜山開発等であります。この会の資金源は近在の有力後援会員62名(法人も含む)で賛助金の拠出を行い、会を援助しています。桜の維持・保全対策は、強力な後援組織がなければ出来ないということをよく理解しました。



茨木市環境衛生センター前にて

### 行政委員に対する質問

地産地消を推進し、

学校給食を豊かにすること

竹田 悦子

問 学校給食見学会などを行い、地

元農産物の拡大をはかることを農業委員会会長に求めます。

答(農業委員会会長) 学校給食がどのような献立なのか、農産物はそのような材料が使われているのか、学校給食などを行うことは重要であると考えます。子ども達から地元農産物について意見を聞き、安全・安心な農産物の拡大をはかるため見学会を検討していきます。

問 教育委員会も、農業委員会・農政課・農協と協力関係を強め地元農産物を学校給食の食材に活用拡大を



はかること。

答(教育委員会委員長) 学校給食における食材購入も可能な限り国産品を使用していますが、更なる地産地消のために、地元生産における量・質ともに確保可能な生産体制の確立が必要であり、農政課を通じ農協・農業委員会などに働きかけていきます。

問 今食品の値上げが相次いでおり学校給食の現場ではやりくりが苦労されていることは想像できますが、値上げ分を安易に転化しないよう求めます。

答 給食費は、献立作成、食材購入の工夫だけでは対応できない状態です。児童・生徒の年齢に必要な栄養価やカロリーを確保し評判の良い給食が維持できるよう、検討しなければならぬ時期にきています。

### 行政委員ってなあに？

- 独立した権限をもって活動する委員会 -
- 教育委員会
- 選挙管理委員会
- 監査委員会
- 農業委員会
- 固定資産評価審査委員会

### 委員の決め方は？

選挙管理委員は議会の選挙、農業委員は農業者の選挙で選ばれます。それ以外は、市長が推選し、議会の同意を得て決められます。

### どんな仕事をするの？

監査委員は鴻巣市の財務に関する監査。農業委員は農業者の利益代表機関で、農地の権利移動や転用、賃貸借の業務。